

# 令和7年度(2025)第1回出雲市総合教育会議 会議録

令和7年(2025)6月30日(月)午後3時30分、令和7年度(2025)第1回出雲市総合教育会議を出雲市役所3階 庁議室に招集した。

次第

- I 市長あいさつ
- II 教育に関する諸課題について
- III 教育長あいさつ

出席者名簿

## 出雲市総合教育会議

|             |         |
|-------------|---------|
| 市長          | 飯塚 俊之   |
| 教育長         | 杉谷 学    |
| 委員          | 川田 量子   |
| 委員          | 奥 康人    |
| 委員          | 布野 和弘   |
| 委員          | 鳥屋尾 あかね |
| 副市長(オブザーバー) | 伊藤 功    |

## 教育部

|                 |         |
|-----------------|---------|
| 副教育長            | 金 築 健 志 |
| 教育部次長(学校教育課長)   | 矢 田 和 則 |
| 教育部次長(児童生徒支援課長) | 原 田 尚   |
| 教育部次長(教育政策課長)   | 山 根 裕 恵 |
| 児童生徒支援課 課長補佐    | 小 林 剛   |
| 教育政策課 主査(書記)    | 池 尻 精 二 |

## 市立学校

|         |         |
|---------|---------|
| 平田中学校校長 | 嘉 儀 純 哉 |
|---------|---------|

(山根教育部次長)ただいまから、令和7年度第1回総合教育会議を開会いたします。開会にあたりまして、飯塚市長がごあいさつ申し上げます。

## I 市長あいさつ

### (飯塚市長)

本日は、令和7年度第1回出雲市総合教育会議を開催しましたところ、委員の皆様には、御多用の中出席いただき、厚くお礼申し上げます。

この総合教育会議は、本市の教育の課題や、あるべき姿について、市長である私と教育

委員会が情報を共有し、意思統一する場であります。

今回は、先月就任いただいた鳥屋尾あかね委員も参加していただき、このメンバーで開催することとなりました。

昨年度の総合教育会議では、「子どもたちへよりよい教育を届けるための学校の働き方改革」と「学力向上」について議論をさせていただいたところです。今年11日には、公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法等の一部を改正する法律、いわゆる「給特法」等の改正法が成立いたしました。お手元に資料として配布されていますが、この法改正では、約50年ぶりとなる教員給与の引上げがなされるとともに、働き方改革の取組の「見える化」を実現し、働き方改革を推進する仕組みが構築されることとなります。その一つとして、この総合教育会議に対して、業務量管理・健康確保措置実施計画の実施状況の報告が義務づけられることとなります。今後、詳細が判明すると思われるので、12月の総合教育会議において、お話しできればと考えております。

さて、今回は、「出雲力で、次世代を担う子どもたちや、地域を支える人材の育成」をテーマにさせていただきました。私の考えを含めた本市での取組や、平田中学校の嘉儀校長先生から、学校の現状や具体の取組内容について、お伺いする予定としています。

学校での取組などの説明を聞いた後に、みなさま方と、意見交換を行う予定としております。

限られた時間ではありますが、委員のみなさま方と建設的でよりよい議論ができればと考えておりますので、よろしく願いいたします。

**(山根教育部次長)** それでは早速ですが、協議に入ります。お手元にお配りしております、資料「出雲市総合教育会議設置要綱」をご覧ください。この総合教育会議の目的につきましては、記載のとおり、資料の設置要綱第2条第2号にあります「出雲市の教育を行うための諸条件の整備その他の地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策」として「出雲力で、次世代を担う子どもたちや、地域を支える人材の育成」について、協議や意見交換を行っていただく予定としています。それでは、設置要綱第4条第1項の規定によりまして、市長が議長となり進行を行うこととなっております。これからは市長に進行をお願いいたします。

## II 協議事項

### ◎教育に関する諸課題について

#### (1) 協議事項◎『出雲力で、次世代を担う子どもたちや、地域を支える人材の育成』

**(飯塚市長)** それでは、よろしく願いいたします。それではさっそく、II 協議事項に入ります。協議事項◎教育を取り巻く諸課題についてということで、今回は、『出雲力で、次世代を担う子どもたちや、地域を支える人材の育成』についてをテーマにさせていただきます。

ました。まず、私から説明します。

**(飯塚市長)** (資料を用いて説明)

**(飯塚市長)** 次に、「学校訪問を受けての生徒の状況」などについて、学校教育課 飯塚係長から説明をお願いします。

**(飯塚学校教育課係長)** (資料を用いて説明)

**(飯塚市長)** 次に、「地域学校協働活動の概要」について、教育政策課 山根次長から説明をお願いします。

**(山根教育部次長)** (資料を用いて説明)

**(飯塚市長)** 次に、平田中学校での具体的な取組について、嘉儀校長先生に説明をお願いします。

**(嘉儀平田中学校校長)** (資料を用いて説明)

**(飯塚市長)** 嘉儀校長ありがとうございました。これから、みなさま方と意見交換に入りたいと思います。どなたからでも結構ですので、ご発言をお願いします。川田委員。

**(川田委員)** 貴重なお話ありがとうございました。また、市長の学校訪問についても詳しくご説明ありがとうございました。キャリア教育という言葉が、市長の方からも先生の方からも出ていました。キャリア教育の原点だなと思いましたが、市長の学校訪問についてもこの地域学校協働活動についても、自分たちの地域をよく知ることが一番のキャリア教育だと思います。自分を知ること、キャリア教育というと、何か職業を知るとか、何か自分たちの進路を考えると言いがちなのですが、自分のことを知ることが一番の原点と思うので、本当にいい取組みだと思います。こういう取組みを、保護者さんも知っていただきたいと思うのです。子どもたちとあまり話す時間もないでしょうし、何か講演についても、保護者さんに聞いていただきたいと思うような内容でした。ありがとうございました。

**(飯塚市長)** 我々自身が知らなかった、よく講演をされる方でも、中学校とか高校くらいのときは地元が嫌だったと。だから出て行くのだけれど、何年か経って外から見てみると、この出雲の素晴らしさがやはりよかったということで、実際に帰ってこられたりします。

これまで足がなかなか遠のいていたのが、関心を持って帰ってきたり、様々な活動に参加してもらえたりとか、そういうようなことになっています。そういうことを伝えていただくとありがたいなというふうに思います。地域によっては、自治会の皆さん方とか、来ておられるところもありました。また、関心ある皆さんに来ていただきたいです。学校からも終わった後に広報ということがありますので、そこでも周知していければいいなというふうに思います。川田委員。

**(川田委員)** おっしゃる通りです。ゲストティーチャーのお話も私たちが本当に知らないことも結構ありました。大人でも、地元のことを知らないということもあります。ぜひ、こういう話を子どもたちが聞いたということは、報告していただきたいと思います。高校魅力化の隠岐島前高校のお話を嘉儀校長先生からしていただきました。地元の平田高校、ボランティアをすごく盛んにやっています。出雲高校の方もSSH、スーパーサイエンスハイスクールとか、スーパーグローバルハイスクールということで、地元との課題解決みたいな探求事業をやっています。本当にそういうところが、もっと広がっていくといいなと思います。これも本当にいい取り組みだと思います。地元のことをよく知るきっかけになっているのではないかと思います。

**(飯塚市長)** ありがとうございます。

**(布野委員)** 先ほどは、どうもありがとうございました。私は反対に島根が本当にたくさんの宝物があるような気がしております。私自身、大阪の人間でして生まれも育ちも大阪で23歳まで生活していました。とにかく都会にいたことが嫌でした。何かの関係で、私は島根県も出雲も好きでした。釣りもできるし、都会の人にとっては、贅沢ということです。反対に若い方が、店が少ないと。要するに具体的なセブンイレブンとか、そういうコンビニでも、都会にあるようなものが、田舎にはないという。反対にそれは、車で行けば、場所に移動さえすればできることです。子どもさんは、なかなか自分の地域がどれだけすごい宝物があるのかということに気づかれていないなと、私はいつも思っています。消防団員の方に、玉造温泉に泊まったことありますかと聞いたら、ほとんど行ったことがない。神社お祭りとか、出雲大社さん、毎年行かれますかと聞くと、人が多いから、1回行ったらわかるのでと。それもありがたなと思いますけれども、やはり子どもと一緒にいくことによって、そういうところに、どういったものがあるかっていうことは、親がいろいろなところを訪問したほうがいい。神社仏閣というのは、島根県内すごいものがいっぱいあるのに、もったいないなというのもあります。ゲストティーチャー、私も昨年から参加させてもらって見させていただいたのですが、やはりそういった新鮮で魅力のある人の講演というのは、子どもたちにとっては、僕もやってみたい、挑戦していきたいという気にさせる。子どもたちがやはり、なんとか吸収したいなっていうのが、私なりに見えてきまし

た。ぜひとも徹底的にいろいろな地域の方、企業の方々が行って、子どもたちに夢を与えてもらうことが必要でないか。コロナの関係で結構、地方でやることがいっぱいあると思うのです。ほとんどインターネットで連絡取り合って、何月何日に、こういうスケジュールでこのドラマ撮影はどこか、何かと。そこに行けばいいだけの話なので、いろいろな職業は、地方からその現場へ行くというような形も、私はあるのではないかと思います。地域で特にボランティアも、危ないボランティアもあれば、けがもないボランティアもあると思うのです。地域で今困っていると言え、草刈とよく言われます。真幸ヶ丘公園という公園があります。そこに、落ち葉がものすごく落ちるのです。地域の我々役員みたいが、毎月毎月、かき集めて袋に入れて処分するのです。テニスコートも中学校の生徒さんが使っています。地域の者が何かを企画立案すれば、どんどん乗ってくるだろと思います。今年から私も河南中学校の学校運営理事会に入ったので、そういったアクション的なことはいろいろなことを言っていきたいなと思っています。私は、阪神・淡路大震災に、1週間炊き出しにいきました。島根県で、1週間、炊き出しを朝昼晩。中継基地を姫路にとって、長田町の商店街で1週間朝昼晩炊き出しをしました。当初、その前に、震災が起こって2週間目に、警察から通行許可証をもらって、4人で現地に入りました。今まで私も見たことがない。戦場かなと思うぐらいに、みんながもう困って、何とかして欲しいと、我々に言ってきたのです。我々もできないのが、がっかりしました。それがいい経験になって、今はいろいろなボランティアを、こういうふうなやり方もあるのだなあと思うのです。危険性が伴うときに保険のことがあります。NPO法人さんは、ボランティアをよく使われるところがあります。そういうところはボランティア専用の、NPO法人さん独自で保険をかけています。その辺りを聞いてもらると、そういうボランティアの方の保険に入りますか。入っているから、いろいろやってくださいと言われると、けがしたときに全部賠償してくださる。今、不登校の居場所をやってボランティアの人島根大学医学部の人とか、学生たちに呼びかけて、あと社協さんからもボランティアで受け入れをしてもらっています。これはボランティアで金銭的なものはないです。来てもらって、子どもたちの勉強を見てもらったり、絵を書くことを教えてもらったり、その人が得意な分野を子どもたちと一緒にやるという形です。本当に、子どもたちが楽しく、学校ではつまらなそうな顔しているけれども、今日はあの先生来ると、楽しみにしているぐらいです。子どもたちにも行き場所というか、楽しいところがあるよと。地域にあると反対に交流が出てきます。そういった交流の中からもいろいろなところの大人との話も加わってくると本当に面白いというのがあります。この企画というか、地域というものは、どんどん進めていって欲しいなと思っています。神門の場合は、古志と神西とも絡んでいます。この3つが絡んだこともいいのではないかと思います。広域にやることもいいと思うし、地域は地域でやると、子どもたちの顔が見えてくると、こんなところに地域の面白いところもある、こういうおじさんがこういう地域にいると見えてくる。もっと子どもたちも、積極的にいろいろなことを我々、地域の人に訪ねてくることもあるのではないかなと思います。今年は、神門のコ

コミュニティセンターの青少年部さんが、1週間ほど合宿みたいな感じで、午前と午後に分かれて、子どもたちに来てもらって、夏休みの宿題を1週間ほど、みんなで頑張ってみようみたいな企画をしています。中学校の子どもさんに、ちょっとここ教えてみたいな企画にするといいなと思いますので、意見を言ってみようかなと思っています。また、出雲西校さんのボランティアさんもあるので、そこにもコネクションかけてくると、素材はいっぱいあります。あとは、地域の人たちがリーダーシップをとって企画立案する人たちが、いるかないかだけだと私は思っています。私も、いろいろなことを今まで企画立案してきました。本当に自分でやると楽しいので、失敗したということもありますけれど、それはいい経験となります。社会に出たときに、こういう企画をして自分でここは失敗して、ここは成功したっていうのは、今のうちにわかってもらえると本当に今後、素晴らしい子どもたちが出てくるのではないかという楽しみがあります。是非ともそれを進めてもらいたいです。

**(飯塚市長)**ありがとうございます。いろいろと提案、今後についてご意見であったかと思っています。先生、コメントありますか。

**(嘉儀平田中学校校長)**いろいろ意見もらいました。広げることは、できると思うのですが、いろいろな体制づくりとかをしなければいけないかなと思っています。本当に、ボランティアはすごくいいことなので、そういう活動を広げていったらというふうに思っています。今年度、初年度ですから自分が住んでいる地域を、まず重点的に、それからちょっと広げていくってところができたらなというふうに思っております。またいろいろな意見をいただきたいなと思います。ありがとうございます。

**(飯塚市長)**ありがとうございます。学校訪問させてもらって、必ず私は出雲力をいうのです。必ず、地域力というのは出雲力の一つだという話をさせていただいています。出雲力の地域の力、みんなは地域の皆さんの活動とか、いろいろ参加してもらって、地域に育ててもらっているのですよということをきちんと伝えてます。その上で、この質問にもありましたように、するどい質問が多くて、私もたじたじなのですが、「中学生の自分としてできることは何ですか」というような、問いがあったと思うのです。「出雲市のために何か、どのような動きができますか」というそういう問いかけだったと思います。地域の活動に参加して、地域の皆さん方と一緒に触れ合ったり、そこに積極的に参加したりすることが、今のあなたたちにとって、いろいろなところで活動してもらうことが一番だと思っていますと伝えていきます。地域の皆さん方と一緒にボランティアとかいろいろなことをやっていくというこの重要性はですね、伝えていきたいし、それをまた学校の方では実践していただいているということでお互いが連携を取り合うということが、先生のお話を聞いて、そういう連携が今後太く、うまくいくといいなと思います。鳥屋尾委員。

**(鳥屋尾委員)**感想と、二つ質問をさせてください。先ほどの平田中学校のボランティア活動の写真を見てて思ったのですが、子どもたちが自発的に視線を下げて話をしている姿を見ると、すごく平田は広域なのですけれど、もし何か災害があっても、自発的になんか防災というか、人を助けようという力が、おのずと身についているのであろうなという感じがすごく見受けられました。この子たちの今後の、気になるというのが、ちょっと率直な感想でございました。市長の、学校訪問のアンケートですけれど、肯定的な回答が90%近くと7割ってというのがあったのです。生徒からの回答の3番、4番のところ、全部ですけれど紫のところですか、あまり伝わらなかった、できなかった、未来を考えるきっかけになったかとか、自分の進路について考えるきっかけになったかっていうところで、あまりそう思わないという回答が数件あるのですけれど、それに関してその理由ってというのは何か記載とかはあったのでしょうか。それが気になりました。もう一つは、地域学校協働活動推進員ですけれど、私の地元でも、先ほど山根課長さんからも、ありましたが今年度から湖陵中学校に配置されて、私と同年代40代の方が受けてもらったのですけれども、他の地域は何歳ぐらいの人がやっているのか、年齢層が知りたいです。若い人はいるのかというところが気になりました。基準、どういった基準で選出されているのか、それが気になりました。

**(飯塚市長)**中学校訪問の件をまず先に。

**(飯塚学校教育課係長)**中学校訪問の生徒アンケート、否定的な回答については、自由記述で記載がなかったので、状況としてなぜ否定的だったというところの生の声はいただいております。これは、あくまで私の担当である主観ではありますが、やはり生徒が例えば200人の集団がいるとしたら、当然、何人か、かなり問題を抱えてたり支援がかなり必要な生徒がおります。そういった生徒も、素直に、自分の今のもやもやについても、このアンケートで答えたり、もしくはまた、こういうアンケートを答える、いわゆるICTを使いこなす、情報活用能力が低い生徒もいます。このアンケートについては、記名を求めています。結局誰が答えたかわかりませんので、そういった意味では、いわゆる、簡単に言いますと、ふざけた回答をするという生徒も少なからずいたというところは集計の実感としてあります。アンケートについては、Webアンケートになります。そういう、いたずらというか、そういった部分では鍛えていけないといけないなというところがあります。

**(飯塚市長)**私は、もう少し熱意を持って、しっかりと進めていきたいというふうに思います。違う観点からいうと、いくつかの学校で、質問してくれる生徒がいるのです。普段、手を挙げて、そういう場で質問することがなかったような、苦手としている生徒が積極的に質問してくれてるということを複数の学校からおっしゃっていただきました。そういう

意味では、非常に熱心に聞いてくれたのだと思ったり、普段とは違う一面がこれを通じて気づいてもらえたりするきっかけになったのかなと思って、それをうれしいなあと思っています。そういう報告いただいたところですので、改善していくようにしていきますし、またそういう生徒をどんどん増やして、関心を持ってくれる生徒を増やしていけるようにしていきたいなというふうに思います。山根次長。

**(山根教育部次長)**先ほどお尋ねがありました地域学校協働活動推進員さんの年齢ですが、おおまかな区分けで、30代から40代の方が3名、70代以上の方が2名、残りが50代、60代の方となります。どういった方が推進員さんとなっておられるかと言いますと、コミュニティセンターの職員であったり、教職員のOBであったり、PTAの役員の経験者であったりします。こちらの方も、学校や地域の方にどういった方がいらっしゃいますでしょうかと、情報提供をお願いさせていただいたうえで、就任についてお願いしています。

**(飯塚市長)**よろしいでしょうか。

**(烏屋尾委員)**はい。ありがとうございます。

**(飯塚市長)**続いて、奥委員。

**(奥委員)**市長から同じようなご意見といたしますか、お話がありました。市長の学校訪問について私も何校か参加させていただきましてた。ありがとうございました。この資料の中にはないのですが、ゲストティーチャーの方々の評価、感想でもいいと思います。そういったものをご承知でしたらお聞かせいただきたいです。各学校でゲストティーチャーがきずなを深めてということがあるのです。その後、何か交流を始めたのか、続けているのか、承知しておられれば、それもお聞かせいただきたいです。本当に大変だったと思います。いろいろなセッティングとか含め、課題をお持ちでしたら、お聞かせをいただきたいと思っています。

**(飯塚市長)**それでは、お願いします。

**(飯塚学校教育課係長)**ゲストティーチャーの感想、事後の実感という部分では、得られている方と、得られていない方がいらっしゃいます。出雲から遠く離れた方については、すぐに自分の業務に戻られます。その後、どうでしたかというようなアンケートもっておりませんので、全員のゲストティーチャーに手応えを聞いている活動はしておりません。事後の「いかがでしたか」という、いわゆる話の中では、ゲストティーチャーの方が「す

ごく話せてよかった」と、それから「若い中学生と話す、自分の思いを伝える場がただけてよかった」と、本当にありがたい反応をいただいております。機会があれば、また今後もというところもありました。そのご縁も大事にしながら、今後につなげていきたいと感じているところです。奥委員も行かれています、わかると思いますが、SAMI JAPANの牧野寛さんとボリス・アフナシエフさんは、結構自分たちの活動について説明なさって、中学生に語学の勉強でもいいから、興味があったらぜひ自分のオフィスにおいでと、駅前にあるからと。その後、中学生が何人か、People Cloudのオフィスを訪ねて、会いに行ったということもあります。事後の活動として繋がっている事例もあります。また牧野さん、ボリスさんの話になってしまいますが、出雲二中にも行かれて、PTA研修ですけれども、そういった活動を幅広く学校向けになさっておられます。その各学校でゲストティーチャーの活動が積み重なっていったり、関連付けられているというところがある様子が伺えます。課題としましては、学校とのスケジュール調整、ゲストティーチャーのスケジュールのマッチングというところで、日にちが限られてしまうということがかなり難しいところです。何とか、学校にもスケジュール合わせていただいで、やっておりますので今後も、そういう形でいきたいと思っております。

**(奥委員)** ありがとうございます。この学校訪問が始まる前に教育長の方から、特に子どもたちの様子をよく見ていてくださいということをおっしゃっていただきました。見ておりましたけれども、これは、施設のにも、会場的にも、今おっしゃったスケジュール的にもそうだと思うのですが、やはり体育館の中で、椅子に座っている場合、椅子に座っていない場合、暖房設備があるのかなのか、そういうところで、最初から、何十分我慢しないといけないう様子を見ました。会場だからそうなのかなとか思ったりするところもありました。なかなか条件的にすべて揃えるわけにはいきませんが、課題として、また、いろいろ参考になることはあったと思っておりますので、ぜひ、また来年度に生かしていただきたいというふうに思います。

**(飯塚市長)** ありがとうございます。他にありませんか。私からお聞きします。先生、この活動証明書の方は、学校で作られたフォームでよろしいでしょうか。

**(嘉儀平田中学校校長)** はい。

**(飯塚市長)** 私、個人の目標が書いてあって、生徒が普通に参加するのではなくて、目的をもって参加するという意味で、個人の目標が最初にあると、また、受け入れられた方々もどういう活動だったかというのを評価していただけるということが、よくわかって、非常に素晴らしいというふうに思いました。これからキャリアパスポートにこれを入れていくということですが、今後これをやっていくみたいなことがあれば、教えていただきたい

いです。

**(嘉儀平田中学校校長)**子どもたちは、すごく喜んでいるのですけれども、振り返りが必要かなと思っています。やって、自分たちがこういうふうな感想を、やる前とやった後の振り返りが必要だったかと思っています。この証明書の方も改良しないといけないのかなと考えているところですが、ご意見があれば、よろしくお願いします。

**(飯塚市長)**川田委員。

**(川田委員)**私もこの証明書すごくいいなと思ったのです。代表者のコメントをそんなに丁寧に書いていただきました。忙しいと思うのです、子ども食堂をやっておられる中で、本当に一人一人をよく見ておられる。振り返りと仰ったのですけれど、このコメント見ながら話しをするだけでもいいのかなと思います。そういうフィードバックをしてやるというのもいいかなと思うのです。この紙をもらって、先生に見せるという、そのワンクッションがあるのも本当にいいと思います。こんなに書けるのかなとちょっと思ったのです。活動の中で、活動しながらですから。慣れておられるかもしれないですけど、ここに書いてもらったことを拾ってもらっただけでもいいかなと思いました。

**(嘉儀平田中学校校長)**ありがとうございます。

**(飯塚市長)**川田委員。

**(川田委員)**この証明書その場で持って帰ってもらうのでしょうか。

**(嘉儀平田中学校校長)**書いてもらったものを地域学校協働活動推進員の方に、コミュニティセンターの方が渡して、それが学校に回っていくという形です。生徒は、そのまま帰ってきます。

**(飯塚市長)**川田委員。

**(川田委員)**今、先生もおっしゃったのですけれど、その地域学校協働活動推進員の方をどう呼んでいらっしゃいますか。

**(嘉儀平田中学校校長)**名前と呼んでおります。

**(川田委員)**長いかなと思っています。同じような名前がいっぱいあって、なかなか覚えられ

ないなと思っています。

**(嘉儀平田中学校校長)** 学校では、名前と呼んでおります。何々さんと呼んでおります。

**(飯塚市長)** 奥委員。

**(奥委員)** 嘉儀校長先生にお伺いしてよいかわからないのですが、今日、私どもはこの委員会でお話をお伺いしてるんですが、これは市内の他の学校に、伝わってはいくのですか。

**(嘉儀平田中学校校長)** これは平田中学校の活動で、三中なら三中の、浜山中には浜山中の活動があると思うのです。

**(奥委員)** そういところの情報共有というか、成果、こういうことがあったのだよということの共有は是非と思うのです。コミュニティセンターとの共有も必要だと考えています。そういう情報共有が大事だと思っています。

**(飯塚市長)** 資料6の方に各学校の取組みの抜粋版、これは各学校でやっておられることですね。全体的に、取組状況を確認し合ったりとか、そういう場があるかというようなことですね。

**(山根教育部次長)** 地域学校協働活動推進委員さんが集まる会を年に何回かさせていただいております。地域学校協働活動推進委員さん同士のお互いの活動に関しての情報交換というのは、場を設けております。そこに校長先生に来ていただいてお話をいただくような場は、現在のところまだ設けておりません。

**(飯塚市長)** 合同会議みたいなものはないということですね。推進員さんだけの会議で、併せて、校長先生とをお呼びして合同会議とするというのは、今のところないということですね。そこで共有を図ってることは今のところないということですね。そういう場での検討もどうですかという話ですね。

**(奥委員)** できるだけ多くの場で、情報交換が必要。そういうことをやってるんだと、どの場であっても限らないと思います。近くに住んでいますけれども、聞いて、オッという感じでした。そういったことでは、一般の方も含めて、広く伝わったほうがいいと思います。

**(布野委員)** 良いことですから、これの発表会も面白いかなと。各学校が来て、どういった

ことをした、みんなの前で発表して、こういう活動もあるんだな。たぶん地域差が出て来ると思います。地域が見えてくる、子どもたちの発表の場っていうがあると面白いと思います。

**(飯塚市長)** ご意見いただきましたので、その辺りをまた検討してください。他はいかがですか。全般的に、昨今の教育行政等も含めて。杉谷教育長。

**(杉谷教育長)** 今日の事例の発表としては、市長の中学校訪問それから地域学校協働活動ということで具体的な平田中学校の例もお話いただきました。さきほどから出ていますように、どこでどんな活動が、いいことがされてるかっていうのはなかなかこうはわからない。そういうご提案をいただいて、子どもたちにとってみると、今回ゲストティーチャーが言っていたことで、こんな仕事があるんだとか、興味を持ってオフィスを訪れておったりというようなことに繋がっていると思うのです。大学を卒業した子たちが、なかなか戻ってこないという理由に、何か、自分が思ってる仕事がないというような回答も結構あるように思うのです。本当にそうかっていうところが、実はあります。知らないだけなのかなと思ってもいるのです。児童生徒たちに、知らしていく。一つが、今回、去年、市長と一緒に訪問いただいたゲストティーチャーさんの話だったりするのです。これだってまだ、1人というか、1つの仕事みたいなことなのです。出雲にこんなすごい会社というか、すごい人がいて、すごい職業があるとか、こんな幅広い仕事ができるとか、みたいなことが伝わっていくといいかなと。子どもたちが知っていくといいかなと思っています。高校へ進学してしまうと、たぶんその先の進路は、狭まりはしないけれど、ある程度の方角になっていくのです。高校を選ぶところから、考えたらいいのかなと思うと中学校段階でそれができないのかなと思ったりするのです。その辺り、嘉儀校長先生はどう思われますか。何かそういう機会が子どもたちにあれば、もっと進路選択が広がりますか。

**(嘉儀平田中学校校長)** たぶん、子どもたちにとって周りの大人しか、どういう職業あるかというのはあまり知らない感じがしています。去年も来てもらったのですけれど、海外の方、ICTの方の話を聞いたらすごく興味を持っています。今年度でもサンタクララの募集があったら、海外に行ってみようというので、どんどん手が挙がっています。やはりそういう刺激を受けているのだなと思っています。先ほど言われましたけれど、物を買うには、今はインターネットの時代で、店に行くというのがだんだん少なくなってきています。工夫して情報発信すれば、出雲もすごく資源があるんだよというところがあれば、すごくいいなと思っています。そういうことが、住んでいるから気づかない部分もあると思うのです。そういうところに気づいて、それこそ、山内町長さんじゃないですが、ないものはないじゃないですけども、出雲にはこんな魅力がいっぱいあるっていうのを気づいたら、こういう職業もできるんじゃないかなと。ヒントがもらえたら、子どもたち、また意識が

変わってくるかなというふうには思っています。

**(飯塚市長)** ありがとうございます。伊藤副市長。

**(伊藤副市長)** 私は、毎年、採用者として、市役所の職員の面接をしていますので、何十人もの若い人達を消防職員に応募してくるもの、市役所の職員に応募してくるもの話を聞くのです。何でその地元志向になるかという、やはり出雲が暮らしやすい、人の心が温かい、地域が繋がりがあって、将来ここに住みたいと言います。そういうことを、一番の大きな理由としていうので、やはりこういう学校のときの取組みが、そういう子どもたちのどこかに残っていて、職業を選択しようというときに、出雲に帰ろうとなる。ほとんど市外の大学等に出ている子たちが、こっちに面接で来るわけです。やはりそういう意味ではしっかりと、そういう取組みをしていかないといけないのかなと思っています。もちろんインナープロモーションとして、市内の状況をいろいろな形でお知らせすることをしていきます。今、いろいろなプロモーションで就職について言えば、高校生以上のところ、学生登録とかいろいろあります。そういうところのプロモーションが強くて、さすがに小・中学校までは、まだなかなかそこまで届いてないのかなというのが実態ではないかなと思っています。話を聞いていて思ったのは、ちょっとピントが外れた話なのですが、一方では自治会だったり、地域のいろいろな活動であったり、曲がり角を迎えています。この4月で、ある地区では、7つ、8つの町内会が脱退して、1町内40所帯ぐらいの町内会が脱会したというようなことがあってあります。流れを追ってというような、あそこも自治会から脱会するのであったら、うちも脱会するというような状況が生まれたというような話を聞いたりしました。斐川地域の農村部においても、あれだけその地域と繋がりが強いところが、自治協会から、引くという話も所々で聞こえてくるような状況になっています。子どもたちが大きくなっても同じようなふるさとだったり、地域活動だったり、祭りだったり、夢、物語が残せてやれているのかなと、少し心配があります。そういう自治協会そういう地域の繋がりがあるところの活動を、いかに持続可能なものにしていくのかということで、今、地域でちょっとお話をしているのです。ある意味、そういうところも曲がり角に来ているというような心配も実はしております。今日の話とは、全然別かかもしれませんが、そういうような印象を持ちながら話を聞かせていただいたということです。

**(飯塚市長)** 今日は、ありがとうございました。いろいろご意見をいただき、有意義な意見交換ができたというふうに思っております。嘉儀校長先生、どうもありがとうございました。引き続きよろしく願いいたします。それでは、意見交換と本日の協議事項終了させていただきたいと思っております。この後事務局の方へお返しします。よろしく願いいたします。

**(山根教育部次長)** たくさんのご意見ありがとうございました。事務局にいただいたご意見

をもとに、今後、取組を進めていきたいと思えます。本日、市長の中学校訪問について、説明等ありましたが、今年度も市内14校全中学校で10月以降実施する予定としております。後日、案内させていただきますので、都合のつく範囲で御参加いただきますようお願いいたします。また、第2回の総合教育会議につきましては、12月23日を予定しております。次回までのところで、この総合教育会議で議論したい内容・項目がありましたら、お知らせいただきますようお願いいたします。終わりに、杉谷教育長が一言ご挨拶いたします。

**(杉谷教育長)**時間も過ぎてしまい、大変熱心に、意見交換していただき、ありがとうございました。子どもたちが、将来の出雲市を担っていくことは間違いないのですが、その子たちにどんな出雲市を今、見せていくのかっていうところが学校教育の中でできることかなと思って今日、聞いておりました。平田中学校の例も、非常に市内ではない例でございます。様々なところで紹介できたらなというところで、先ほど課長が申しましたように、少し検討してみたいなと思っております。今日は大変、有意義な会だった私は思いました。また、いろいろなご意見をお聞きできればと思っておりますので、よろしくお願ひします。ありがとうございました。

**(山根教育部次長)**それでは以上をもちまして、令和7年度第1回総合教育会議を終了いたします。長時間にわたりありがとうございました。

**(午後5時5分 終了)**